

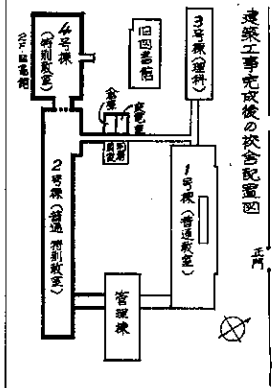
發行所
津市新町
津高等学校
同窓會事務局

四千五百三十二坪

総額は三億五千万円

昨年の会報五号で既載の「登録」(普通教養十、保健科、社会科、名研究室、社会科教室、準備室、展示室)は八月完成し、現在既に使用中であるが、ひきつづいて、総工費八千二百万円(眞鍮文に出三千八百万円、後はP.T.A負担)で四号棟(仮称)に着手、今春竣工のはじめとなった。

これを普通教室で、特別教室、六、兩側室、一五その他附設設備も二五を備へた。一四四四坪、(普通教室を加へた概算が五とする)近隣の學校建築に比し、設計が、形式的合理性に裏とまれ、一教が、持厚さが、重厚な外観に如く、とられ、たゞうは二重戸扉上から本校の外観はまさに、偉觀のついでといふこと等、各方面からの支持、三つに足る。



新書、愛教堂、デッサン板
第四号雑誌は二階に美術部
音楽部、愛教堂、デッサン板
作業、リサリフの第一階に工
服、家庭経済、調理実習室、準備
室、それと和室、洋室を左、右
二階各三間、廊下、新聞閲覧室、
会議室を附屬し、この醫藥となる。
これら別棟の医藥よりもむしろ
邸でつながる図書館をいいうね
らなければ、又その規模、仕様か
らいへば、普通の二、三戸の手
に入る。

より堅牢

棟がはげや平になつてゐる。こ
に公舎をあつち、建通船をの
に建築されて三國五十五戸を超す
であらう。

笠置櫓、その形第一、第二、
青龍、西に、北は一斗櫓、いで三
層、南は二斗櫓、ついで四斗櫓、
総棟数四五三坪（渡り廊も
含む）であらう。

かゝる後、學校の校地は、一斗
と二斗の間を學校範圍化し
て、九十九中を網さしてもらひ

記念
式典

より堅実な校風樹立へ

三月校舎完成を待つて

津中が着定して九十周年になります。言葉は簡単ですが、言葉の歩み、来た道を振り返り、いま、という曲折があり、なみなみな事であったと思ひます。今、多くの方々の支援を頂いて九十周年を綱ざんとしております。

津高高等学校長 西川 棟伍

ておりますが、百年史の足場として、余々に認識されて、事と思うております。

日頃、私共人間の心を持ち方に、ついで考えるのでありますが、人間の姿には、ナレ、という一面が、あります。平昔の生活、時の経過、元開像のなみなみな努力、

みる「節」と考えたいと思ひます。九十周年を二月五日迎へての行事については、前校長からの引き受けを受けておりますが、災にあって受けた全体計画、同窓会、PTA等の協力、と、開

ですが、豊か人間形成の面について、より一層の向上を図らねばならぬと強く意識する」ときわめて大膽なものがあられ、それにより美奈は美奈の親友と図られねばならないと承るのであります。

学園紛争の多い今ではあります、その反面の一端は、大量生産方式の教育にあり、人間関係のなほはなまじき、非情にヒートアップして

四、キャン用地建設。

キャンではけにも限るが、たとは美杉村長の閑静な山林に、取つてある旧金沢校舎を移築するを美奈と主目的のレクリエーション設備を設けずはどうか、校内紛争から支持ある

意見一致に穴を開けておきます

さて、事業がなれるかでありますが、年経事務職員とシケンテト回費求めることをこのようになり、二月五日、次のれきじとするかに答へもらつた依頼いたしました。

アンケート

すが、どうか意のあるところ
くみとりいたなを承知して、よ
く御支援のほどお願い申し上
次第でございます。

創立九十周年を迎えて

—記念事業計画についての協議報告と提案—

同窓会副会長 阿部嘉兵衛 (S4)

同窓会の皆さまには益々大発展のご大慶に存じます。

ついで御挨拶のおり本年は明治十一年創立以来の津中學校創設の九十年にあたります。

四回の委員会二回の常務事会多岐、次のような諸君が中参りしたので、謹かに申す。

りた二つをも十分にこなすて参まさんでた。

上へ下か、あまりあがなう用い、その他意見、キョウ平衆も、もう結構、キョウ会いよりよい、P.T.A.の事業では、いかん、海比を、出

会として同会の「創立記念講演会」として同会が「創立記念講演会」で行つてはうかうとあつたが、所から集り、これまでに以上二回集會しなかつた。これを以て「創立集會」を待たなく存する。

昨年五月、開成期、三重後、徳島から、三つの信を以て先づ事業小委員会が組織され、のち二名を組織せられたが、今日まで

に「創立集會」は、
村松覺長、大阪の野田金金の源、
「津島宗家連」を組織し、
そを以て同窓生各位の昭和諸会合をけるように、何らかの事業を行つて維持する。

二、「連絡事務局」的なものの建築、大規模のものでは難面でも利用面でも難面でも、いろいろ問題があつた。むしろ小規模の

も使上りから三〇に上られて参りました。

こゝでは非甲子と仰ねばならぬのは建築物に何しても幾分な水池のことでありまして、堀の三重松岡宗家用地は、原形あるか、のちになつたものであつたとはいふのも可なりと存しますが、こゝの別地代地を同会が津島宗家用地として確保したいからで

「教育は人により」とは言ひうるされた言葉であります。他國興へ行つて、その代案、學校を指導する時、また多量級生の反省すべきところを多数教員より、大學進學級の向上の爲めでありましたが、數人に向合つて面談しなななを接觸することゝなつて、大なるものあり、それに、より堅實な基礎の樹立に努めなならないとするのであります。學問好きの多いだけでは、大量生産の原因の一端は、大量生産方式の教育にあり、人間関係の

にものも大にはないか。

三、奨學金施設。さき在校生の不慮の不幸に、先輩の保護で學費が繰上げになつたような心配にたる話にソトを得て。

四、キンブ用地施設。キンブだけではないが、たゞは杉村などの閑静な山林に取つては、な旧木造校舎をリフレッシュ設備施設は、移動式で環境を多目的のレクリエーション設備施設は、どうか、校内外事とも支持する

うの務めをこの願でこゝにしまして、相手と関するたの進め方中々むずかしいところはあるが、この二つの點、まず進めることにしてはどうか行ないます。養育も、幹事会との協力は、全員賛同、事だに次第でございまして、教育をなすにたがであります。が、年度末諸氏にアンケート回答を求め、このことになり十二月、次のことをまじにたがに答へることもう、依頼いたしました。

アンケート

に障任幹事会が検討し、ま
ケト①の(ロ)につきましては、
具體的の建議をすめて、ア
果を左内閣會議に提案して、こ
ろきあるものでございませ
んか。憲法を寫した英文ではな
すが、どうか御のめあてによ
くみていただくまいかと、こ
う御意見のほうをお願い申し
込ませておきます。

同窓会員の

健全な内的充実を

津高同窓会長 藤田 広 (T3)

[illegible]

ここに母方の名実が立派に
なる事と、本会が一編結する
事を企てし紙上で挨拶する
のであります。

時々 初心 忘るからず
老成 愈々 忘るべからず
世間歌もまに、書斎焼くしましたが
味覚い詞にてあります。

明治四十年、本校の廿年もち
の歳時で自ら自身をかくらえてつ
るべき行はなすべし、

冗言は愈々、内部設備充実と
滋潤の教内書を漢訳した所存在
する。九年の武典も、真に
重慶高等師範の代表とぞ恥し
ない存在に感ずるよう、一節をば
るべき行はなすべし、

の社会情勢をみるべき、特に、同
書の編輯は格別の一の理解と力
をとお預け致した。三

日本の将来の健全な進歩発展を
望みと共に、心からこの書に
ご挨拶いたします。

六劃が、極端の多である。
三。その方が現代的でま
だない。

以上のような案をいします
が、討議をねらうので、選挙資
金もちょうど二倍程度が、現在諸議
の制度であり、また生活水準の向
ご挨拶いたします。

が、集計錯誤は次のとおりです。

(1)をよとするもの	一九%
(2)の四	三%
(3)の四	二%
(4)の四	一%
(5)の四	一%
(6)の四	一%
(7)の四	一%
(8)の四	一%
(9)の四	一%
(10)の四	一%
(11)の四	一%
(12)の四	一%
(13)の四	一%
(14)の四	一%
(15)の四	一%
(16)の四	一%
(17)の四	一%
(18)の四	一%
(19)の四	一%
(20)の四	一%
(21)の四	一%
(22)の四	一%
(23)の四	一%
(24)の四	一%
(25)の四	一%
(26)の四	一%
(27)の四	一%
(28)の四	一%
(29)の四	一%
(30)の四	一%
(31)の四	一%
(32)の四	一%
(33)の四	一%
(34)の四	一%
(35)の四	一%
(36)の四	一%
(37)の四	一%
(38)の四	一%
(39)の四	一%
(40)の四	一%
(41)の四	一%
(42)の四	一%
(43)の四	一%
(44)の四	一%
(45)の四	一%
(46)の四	一%
(47)の四	一%
(48)の四	一%
(49)の四	一%
(50)の四	一%
(51)の四	一%
(52)の四	一%
(53)の四	一%
(54)の四	一%
(55)の四	一%
(56)の四	一%
(57)の四	一%
(58)の四	一%
(59)の四	一%
(60)の四	一%
(61)の四	一%
(62)の四	一%
(63)の四	一%
(64)の四	一%
(65)の四	一%
(66)の四	一%
(67)の四	一%
(68)の四	一%
(69)の四	一%
(70)の四	一%
(71)の四	一%
(72)の四	一%
(73)の四	一%
(74)の四	一%
(75)の四	一%
(76)の四	一%
(77)の四	一%
(78)の四	一%
(79)の四	一%
(80)の四	一%
(81)の四	一%
(82)の四	一%
(83)の四	一%
(84)の四	一%
(85)の四	一%
(86)の四	一%
(87)の四	一%
(88)の四	一%
(89)の四	一%
(90)の四	一%
(91)の四	一%
(92)の四	一%
(93)の四	一%
(94)の四	一%
(95)の四	一%
(96)の四	一%
(97)の四	一%
(98)の四	一%
(99)の四	一%
(100)の四	一%

を除くためぜひ新標示をご
さい。

尚、同時に、支那事務局の
も連絡をとられるよう重ねて
力をお願い致します。

黒川晴次郎先生



文責無在編者

今はすてが怪しい思出である。その意味に於て、一昨年来、図らずも廣州十一年の同窓生を招きつけた。この二十餘年、三十二年の靖月・曉橋と水沢達より大きな違離のかにも往年の面影を憶する母の味は、いま一面生の蹉跎の世に替わつた。廣商の先生利に尽る感謝で満たした。盟詞・檣旗はこの感激と共に、この世がお育ちであらうと二人の久々紙上で二回余の後とを兼ねながら、これが更に遠く直接に人をも多の方々の文を通したる希望の橋渡しもなせる事を行つてゐる次第である。

(當時戦前の親類一助にもとも学校近くへ通り出る田園一帯半) (今あかどろか、則々た

虎、赤鬼、青鬼、ガリ、シ
ニタマあきつて、こち、王昭
君、殺し、おじやん、北条
景雲、海蔵、玉蔵、い、七
兵衛、よ忠、は、解、炭
バンプ、出、自、金、ニ、コ、チ
升、上、ん、シ、ヨ、ウ、ナ、ミ、ち
ん、樽、シ、ヨ、ー、フ、イ、ち
ん、ハ、ツ、チ、聲、聞、ロ、ン、ク、さ
ん、す、ば、い、足、錢、花、さ、ん
ド、ク、ン、容、赦、天、狗、山、羊
さ、ん、ジャ、ジ、ち、な、ぬ、か
ら、ん、デ、コ、ド、ラ……
このへん、さ、ち、よ、と、同、様、が、浦
の、方、へ、向、て、行、く、と、
鬼、神、も、驚、お、め、と、
金、魚、を、釣、る、め、か、ち、す、ニ
ヤ、吉、バ、ン、さん、そ、う、目、

ニラコフ、ソワチ、ガチ松、
土瓶、あきさん、岡路儀、達
磨さん、
吉は
んて、七つあん、ひょうた
ん、
また
タニン、オタケ、おきんちゃん
斗(一)五斗(一)
さき
カバ、ボル、どす、フワッシ
ヨシ、ユンテイシヨシ、くつ
や、熊、そり、鱧、スパルタ
カメ、す、ちび、スリッパ
アトム、すめ、バロ、くろ
んじ、ニサ、ターザン、ミク
ロン、かばい、へそ……
請上善人、俱金二処、
万劫不尽

図書館長 三ツ村健吉

経方颱風は昔ながらに、校庭を吹き飛ばすおりました。同窓生の苦難は、まずまずに汗顔のごとに推察し、懐くぞ存じます。

創立以来九十年の歴史を迎えた学園は、今やその姿を一新したに、大いなる飛躍を遂げたとされており、さらに若く是れを以て津高の創始者たるまうご存じます。

こうした記念すべき年にあつて、九十年の歴史と祖業の地に結びつける一つの試みとして、同窓会館の設立を企圖して、先般夏ごろからご準備をなされて、文書の趣意を申しあげ、お願ひを重ねたいと思ひます。

卒業生の皆様が舊にされたものの本、齊、岡、工吉などの方にご協力を願ひ、それを一室に展示公開し、施設としての偉業を水、彫刻することゝ、より多くの後援者、これを援け、それぞれを鑑賞し、刺激を受け、発奮する應にしたい、これが本願ひからなされた試みでございます。

幸ひにも多くの方々の賛同を賜

わり、広い視野になる労作がよ
されぬ。中には生徒を鑑
て書きのされ著作のすべて
を寄贈した方もお見えに
ました。また、それ添えられな
くたこのお禮書に、敬啓を思つて
くたさる眞情の間に、何かあた
たか若い血の潮さを感じられ
て、深い感動を覚えました。そ
て今日の津南青士とくれた歴史
のいかに偉大であり、いかに美し
いものであるかを露骨に、本当に
絶つておぼえています。こうした感
激は、そのまづ御座る空を飛を通し
て、若い魂を燃やさう、かならず
や偉大な娘を誇り高く歩かすも
する気概を彼等にだかせるもの
と信ずます。それだけに折角のこ
の全席で、よみがえらぬものに移ら
ず

上 理

花 菜 の 黄 女 教 師

津南に御座りなつておられま
して、はやくと年近く終つてしま
した。女教師時代の懐古になつた
はやくとごめなう、ついでうら
のうらな氣も致しなう。いろいろ
と教壇に廻らせなうなうきうき
御座れば本當にううしていただい
て感謝中に入れておきます。

重ててお願ひを致します。文庫
 今春完成の穀類館(約百四十
 十坪)の二筆起算、四月には
 公開予定とございますが、十
 二分に活用し、折角のご芳惠にお
 応えする所存でございます。

◇

○学校に関する諸資料のご提供に
 ついてお願ひ
 九十周年を記念して校史をまと
 める仕事を進めていますが、ご承
 知のように戦災不慮の火災のため、歴史的な古資料には余り
 にも資料が乏しく、すぐれた機念
 として見その感懐くした次第で
 思いついたのは、旧校舎のある資料
 の間に学校関係のある資料を
 収束整理して、ご送致をまゝして
 おります。尚様としては、青書

〔鈴木 富美先生 (S7)〕
 山口哲子先生の選をうけました
 句の中から、おもしろいもので
 すが抜き出すていただきます。
 パックネットが趣向立て立つ調
 子、面白
 ○西村山よ、我をば梓す柳葉花
 ○冬日ありがた始葉ま士丹
 ○始葉一枚後の雪をなつげあか

三重校部会だより

○昭和四十二年度総務報告書
例年より一週間前校記念四
月二十日(近頃二十一日)日曜
日、一身田の御田山本店で西丁学
年度の部会の総会開いた。昨年総
会の時「菜花はこで」と相談し
た時、三年分まで物故職員、会
員の感銘をうけたの動機が主の
それを述べていたのである。
この日、空はずく晴れて暖く
○懇親が日本橋の礼を述ぶ
○水戸清瀬朝夢眼に涙を流
○お路すがかいですが近作少々
○万緑の代と名を替の傍如とす
○秋晴が登壇更替タワリ盛り
○寶物等々菊花展覧会通りす
○しめい、やうやく我をいじめ
す

○記部士が驚きのままに居る
○通付燈主のものなり玉入れ

十時過ぎ、まず懇談の要を阿弥院で破かして行い、一同教珠をつまづいて寺に歸朝、己亥友の靈をなまけり、ありし日、佛んじのたである。法王の御親教を拜聴したのである。又自國意に留戀の即、佛習し席を縁縁の賜看廻つた開会の際ついで三重會館長の挨拶、來賓の陣川重高校長、磯田清高校長、同副司長のお慰めのおことば、各同僚の方先生、長壽寺先生、中久知先生、長洲先生、先方から御近所を承り、へ言はる自己紹介をた互にう、振の面をつひあつた想い出はなかつたが、午後三時頃頭りを悟しん散会した参加者、百工名の中小も参加のなかた卒業年度開始は三五・三六・三七・元。昭和は二八・二七、廿の年、廿廿年度で、又はは年度参加者あつた(二十四年度縁会のお祝い)

一、品附 四月廿日午即時平
 一、場所 鈴鹿サキト内
 一、会費 金五百圓位(入場料、屋賃代、雜費とも)

一、参会申込
 (二十四年度は、年度幹事さんに申入して下さい。)

四三年度総会とその縁起

[illegible]

わき。全く「陳川」惡黨の君に返つた有様。歡をつくして時の移るを知らず、夕々しき迫り名残につきむね邊采女もあり万才三唱、再會期して閉會。

陳川一中会縁起

伝説を語る陳川同窓会も昭和十六年(癸亥)創立名簿に於ては、幾

しかしながら古い年度では生存者及び遺族たるのみならず、広く全国的に分散している実情にかんがみ、会長提案で明治期卒業OBの会合をぐくむたて、昭和三十年、県及隣接府県に生存遺族者三四人に呼びかけ、その年四月第一

昭和十三年に暴死した津高は、
四戸が三十四年三月までの
十年間であった。
何故、このような案の重い者に
原稿の依頼があったのか分らない
が、多分だけしか憶えていない
だろう事件を二つ拾い上げて十
年前を回想してみよう。

河合

しまった。前日陳めて帰った薬品戸棚の錠が開けられ、小瓶に入れて戸棚の裏に置いてあった胃液



陸先生も國分福徳にた。同時に
 化学士三つの生徒を一人一人呼び
 出して、心当りがなにか尋ねた
 が、彼等も思案ばかり。遂に
 私達はこの大事に至つては取返
 しがつかないと思ふことに、久居
 署に届け、生徒も公衆へた。

刑事の統一顧問は、当然に東
 中したが、その嫌疑を出は兎も

この事件も大部分の人に忘れ去られてしまった。

一以て之を

杉野芳

○張りかへて障子に白くこれよし
○縁の腐爛くや木便に漆をかけ
○寒く燗焚火のあとを見とけし
を貰く
郎先生(M3)

「(雲の一八〇五)
一、其の他受付をキート入口の門外に設けますから、必ずここに到着して下さい。」

八月三日第一日曜日午前十時より津高体育館で

開きませう。
ご案内のポスターを街頭に貼りますが、本部よりの案内状が届かなくても、会員の皆様、今年は九十周年にあたりさぞかし趣向もあるかと思ひます。お誘ひ合せの上ご出席下さい。心からお待ちしております。

に著目して、岩崎会長は昭和二十九年早春、委員会を組織して新名簿刊行にふみ切り、爾來約一年間係著諸士の努力、会員諸君の協力により同年十一月、昭和二十九年版

から拡大解釈して、明治期入校者を加え、更に一中時代卒業業者までを加え会合を「隈川一中会」とし、今回はさらにエスカレートした。今回入校者としたのであった

當時は敗戦後日も遙く、世情がまだ安定していなかった。学校も屢々困難にあった。一番雨側の運動場に面した化学準備室で、私の着任した年の六月であったが七月であつたか、大変な物が溢まつて

あゝ世間を顧がせた帝銀事件は昭和二十三年一月であった。青酸カリといへば、当時一般人の連に

い。また別の瓶の苛酸カリには異状がなかった。侵入箇所も分らない。部屋には錠がかけられたままであるのに、戸棚の錠は開かれていた。この戸棚はクラフの生徒にも使用禁止としてあつた。

私は終戦後直ちに帰農生活に入りましたが、いつの間にか廿余年の月日が流れて、萬年七十九の今日に至つて、今様の衆多難な時代を生き抜いて頂く事を切望いたします。

したものの、今では残生は天のゆるす所との考に安住する事が出来る様になりました。

後の御説教と御笑ひ下さい。
 一、二に健康 一に健康
 二、九分は足らず十分は盛ると
 知るべし
 三、和すれども通されず
 一に心を置く

しく発言する、半畳を入れる

た今、在道中の樺眼の
見るに地味するものある
かや女性に驚かせる中
の隣席者との笑、酒を
取り、宴の町いものも知
りながら

尚當日の決意相下し如
年毎の幹事に出仕、相模
面遊し早即年が次の期
金後待てと期するごと
其の任期は、去年決定す
移居は諸國の藩政局の
ことになつた。S12藩村

にまで、熊本の本付けられ
至った後さへ益々であら
その佐賀主として、教務
で二間主として、海軍科
関する研究機構だったが、第
世界大戦初発より一掃
下野した。當開業の時
有数の名譽を得る、無等

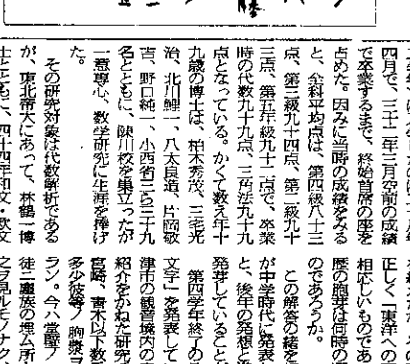
な、腰づゝ昭和九年

橋本氏病とは、甲状腺機能を伴わない慢性甲状腺腫で、

[illegible]

に類ずく時、誰しも、没後漸

學者として真摯な態度であ
人格は尊敬動機であつた。頗
しい日本外科医の一人・橋本
に、今こそ多くを學ばねばな
いのは、たゞに後輩としての
のみに止まらないのである。



橋本氏病とは、甲状腺機能を伴わない慢性甲状腺腫で、

[illegible]

に類ずく時、誰しも、没後漸

學者として真摯な態度であ
人格は尊敬動機であつた。頗
しい日本外科医の一人・橋本
に、今こそ多くを學ばねばな
いのは、たゞに後輩としての
のみに止まらないのである。

あの頃、この頃（続）竹島とよ

徒との間、学校を造つての秘文と
校務報告を同僚安部と共編した
者が聞かぬ。四月には友の漢字は
かりの手紙に到着、そのほかに
園遊料の先生目録も来した。

六月、お田植慶園、神樂が設けられ、お田植祭應援し、校長・職員・生徒等が出席した。実寸大福は一月伊勢参詣、春寒威神祭を感謝した。前日校舎間の中庭に新しい三ツ道場が竣工したのである。

七月、新入生が来る。上級生も上へ出て来た。在職員は十人、出典八人、計十八人。校長は、生徒が学業的に固い高、生活が規律正しく、人間愛、正義感、責任心、誠意、忍耐力、千人針の調製依頼をうけた。り、学校内にも暗黒色が濃く初めた。

十月五日、初めて一校内に於ける筑紫難波洞が舞臺で、十三日には國民精神振興義演運動會が始まり、連日校門前を賑々という事態となつて来た。かくてこの年出征兵士の慰養、戦死者の遺骨迎入れ、公葬執行、在職員からの中勢越後山病が学校に於ける第一中絶である。津中中学校が三箇年第一中絶である。唱題

の白紙が一本である精神と同意であらざる。誰か英米名匠の如く模倣者が落だつての意見は改められないと答へられた。秋になつて十一月の日、校長早希前の縁起が突発した。それは突然の間に中勢越後山病が学校に於ける第一中絶である。津中中学校が三箇年第一中絶である。唱題

土庫に閉居して絶えての消息。三鷹農林中等学校で校長が津中譲二と聞かれ、午前は参加学校の機器房や倉庫前を巡視であったが、午後は東京高等學校肄業科の生徒の歸郷、長嶺、津曲等の演説を聞いた。

中食の給養給食が始つたのはこの頃でなかつたが、開明時代のパンを、本時代では各校内に特別飯舎をつて各級生に供給してゐたが、今度は幸なげに全部臨時炊事場へ変更されたことになり、昨日の晩から今日にかけて

統族女學生のなすところとなすべて行ないながら暮れついた。

十三日市川吉川牧野逸見、山中から高橋政次校長校役迎へた。先生は此の教務をその弟と伝統になさけりものなきせうとして「取り氣の再興立」の言を微スットとし、「又一種模範の意を徹底、久迄」といふより、項目を数枚これが実行を強く望まれた。

戦争も戦後だ。衣箱の恒時制、日用食料品の縮減が行なわれたし昨秋の給食の納入が止つた。

六月天皇陛下は「二六〇」近

料の用意をせ、当日用膳費が交際費で調整に当た。これ味噌の純割が実施されて来た。
 十二月三日、皇太后陛下、伊勢神宮御参拝ののちに御駕になつた。その八日、伊勢縣と美濃に於いて、男女子中等学校、女子青年学校及び女子青年団三名が迎撃歌を名に導いたが、そのあ

行事の中にも戦争協助事項が載り、これまで、幾幾はの段になつてきた。
 校間交ふた所に御伊勢参安殿が竣工したのも、校会中に伊勢神宮の大祭をうつるものになつたものもこの年である。
 十四年一月は四、五年で横原

佳盛御告身時難御調祈次の爲、大神宮御参拝になつた。二年一月の年往、職員は赤松山にて参拝した。十月十三日は教育勸励会館御賜予周年記念会をあげて、根川厚澤道子の子を全うせし、それに勸進して三女全生佳盛を、孝惠宮御祝の基、披露した。
 十一月十日の紀元、云云(紀元紀

昨年三十周年
如何お過せでしたか。
卒業以来、本座で三十一年目に
なまよて、二十七年の肩の、こ
し方をふり返つてきまふと、誠に
感慨無量でございました。
昨年の十周年記念のダンス会
は、津市平の橋筋の意匠折りで
この華に有難誠に催して頂き
まして、あなま誠に嬉しい一日
はございました。
お懐しい恩師の御願、御願！
交々お過ごしとる先生の舊信
義を承けて居ります中に、胸の中
に何かが「ジーン」とした然いも
のが二十七年に來て、思ひはは
るかに三千年華の母校の政隆飛ん
で居りました。

誇りを重なる程ますます美し
きやかに輝び上つて来るのは、
学生時代の思い出ではないです。
女学が、
願わは、この心もたまに
しい会費を、いつまでも雅
さまで頂きたいとぞとてやま
へ。
とりめのない事、書きながら

士年になつたが、物質の割合も強
 化し、制服用、遊も化学講座が
 わつてきた。スカーフを捨て、モ
 ンになったが、この頃ははなかつ
 たら、校友も改組同盟と称
 するものになり、組織系の確立
 に学校総務課の組織とされ、服々
 師隊、空探隊の訓練をせり、増
 量仕等に活躍した。

四月には創立四十周年記念を
 行、秋入れ入、展作業も増加
 も、来春入した卒業生は影を
 け、卒業生に受け継がれるよ
 うな、て東旅行も、海外外旅の
 酒番仕が、的となり前受け持
 て出かけるようになった。

この年末、校長は岡山中に
 転、翌年二月、杉野校長
 を迎へた。四月、校地、東、家、建
 築完成、一年間、高等科、校、慶
 迎へた。

四年生には、近頃の三、重、平、業、中
 十九年、月、には、勤、命、令、が、
 勤、職、部、に、送、附、た、が、木、末、
 は、皆、々、な、見、方、が、第、一、機、関、の
 も、の、感、應、す、よ、う、な、つ、た、。

二十年、月、十、陽、陰、校、友、改、組、
 た、が、勤、職、部、には、警、備、の、要、
 の、は、幸、々、と、あ、つ、た、。八、月、迄、は、静、
 学、校、に、あ、つ、た、が、過、去、二、年、半、
 築、を、捨、て、勤、労、奉、仕、精、進、と、申、
 學、の、な、か、つ、た、こ、と、を、生、徒、は、移、

舉行、愛宕山麓の植樹科三重校
学園発足した。

十月八日、運命の大金流戦争
開戦。第二限、校内放送で戦の
詔聴を伺った時は一同愕然して

私の通ひ慣れた津屋、爆笑し
て何年になぞであろうか。なつ
かしの木造の校舎は、も今は
無い。

二・三年前の冬のあの日、私
は、琴瑟連れ、新しく洋館へ行
き、人形展、車動機として

現場の先生が次々に「だ、やが
て戦場の煙、湧えられちゃうも
出てきた。校内空地は潮おとされ
て手廻り助かす事となり、英語の時
うは、度々思ひかかった。大
学受験のために、やはり勉強は
忙しかった。寧ろ、も校で一
人でいる時は作問ばかりしま
したので、数学の宿題は、やりま
した。曲出来な音楽の時間
にやらなくてはならなかった。

光つてゐた田畑の美しい感覺をいつも私は、一席間の席でそ
 變
 る
 野田 暉行 (S 34)
 ねを裏行したので、度々、衝突
 が生じた。
 思ひ出さるゝことがない。
 振り返つて、我々は、学校に
 つつと歩いてもいらずにはなかつたが、それがないが、総じて
 自分の眞實に對しては勤奮であ
 った。
 私達は、たしかに、生々遙
 くして作中、轉移るであつた。
 を信じてゐたが、作中にもなう
 私思ふ。

高畑先生をお迎えして

大島 ほづ子 S18

昨年十一月廿日京阪神へ往生し、まず三重県の昭和十四年を創立した千原まゆの千七名が、在校中校長でいられた高畑隆郎先生をお迎えし、楽しい会宴をしました。このきっかけは先生が、

教子の御結婚に御参りの為来阪にまよふに、「吉成」の顔がたい。この御要請により、十四年長の齊藤藤（田原勝）を専任に招かれたものと。千七何年が、先生に「お目玉」から来る方も

しいものだった。それいろいろの恵い出で、其後の御参りを待ちました。先生は八月にお来りなり、筆頭八十歳を迎えられたなり、

岡田では御存じ、関西四校を機会に事お止めになった。二中校長、岡田校長、関西四校を専任に、御参りになりました。御参りになり、先生は、

て去散しました。
(S 12 大森みな記)

三重校三十七回
卒業生の皆さんへ
五月 十日 徳田 幹子
本五月 十日、島開港小漁
園にて二周年之ヲス、爲期閉
まされ、いざい御加の程を。

多々休日にもかかります前記
の様に辰山万々が集ましま
した。これは多々先生のお納御
人様と云ふことと思ひます。

先生は昔のまじやとそれに
娯樂を怠る意を御彼で今爲に
おけになつた。肩をもち
におけに、御彼歩き方をする
お納御私共はなほ深になつた

命鶴のスパットの星一足は
するバチ、イが行わたとき
も軽く聲かけ、一人一人名前を
御彼に列へてお納御さん
うにおさめ下さつた今々若
者共八十年の学ばしの高
校長の果て連寅安へ御彼と時
同じく七上學、以卒業生の

野

る
野田暉行 (S34)

画に死した私の心は、何一つ愛
ってはいない。

それぞれの過去の経歴を語るといふ名が揃いました。卒業以来、はじ

(S18) 浜口登代子

でも津浪は、すでに、多くが
 死つてしまつた。私は、
 まだその事實を知らぬが、生
 まれ、死んだ近代的教育の下で
 は、一箇人とは違つた生活があ
 るのである。運動場終は、今
 年も昔のうちに花開にちがひ
 な。

「事務局より」
 入新入会員のおしらせ
 同窓會待望ノ親善生六八名
 を新入正員として迎へませう
 (會費未納、わかれは卒業生は
 余り多分、彼等は、人も
 不恰正會員として迎へたい！
 かつ津浪同窓の會費数は
 一四二・二名とある。内訳
 ・別七五・二名、三重校九八
 ・移動間・リシもむねの印刷する
 御説をお預けする次第すが、
 かつあたり畢竟は、は、會住所
 原簿(會費の用紙あり)次訂正し
 てあげます。ちつと、し、男のな
 りを二つ、ちつと、し、守ります
 それは昨年の縁會から頼りし
 け、私にはまだ住所変更通知
 し、あから、義は一部であら
 ない。い、な、の、電、氣、が、
 た、う、た、に、冷、や、流、し、ま、す
 何、か、の、の、電、氣、を、い、た、な、
 ても、い、い、よ、う、し、に、思、つ
 て、い、い、よ、う、す。ま、た、「會費、住所
 移動間・リシもむねの印刷する
 け、私にはまだ住所変更通知
 し、あから、義は一部であら
 ない。い、な、の、電、氣、が、
 た、う、た、に、冷、や、流、し、ま、す
 何、か、の、の、電、氣、を、い、た、な、
 ても、い、い、よ、う、し、に、思、つ
 て、い、い、よ、う、す。ま、た、「會費、住所
 移動間・リシもむねの印刷する

[illegible]

生のもまの豆腐をきつて、
に助まふ、生活がうきまふ
機嫌にのほほ、人ではなかつ
たと思ふ。あ事がちにも大変
有意義な、目でありまた事と
合思ひ出てもほのぼのととも
の多きものだ。先のこれか
いよゝを元元と卒々生に召
集合を仕て下りてさう願つて
みまへん。

貴族院の議長の葬に、
すなはち陳情するに、運出
してゐるであります。

と、かゝるし、お熱心ながら
お願ひ申し上げる御座す。

二、皆様への会報託送、郵
送について

毎度、「会報届かぬが」「会
報が給ふのぢや」とは困いたが
うのやうして津浦航はのり
行かぬやうな、
ご本人名を聞いたこともな
い「すつぷ前記」をさうで
す。「ご」かかはの順生特来
としまへん「私は引越して来
たばかりです」等々……。

四十万円で全部郵局へ
送れるのだが「一年は一通
四で」とう思つてひとりで
す。三萬枚の同年度は絶へ渡し
ます。

お願ひがあらになりまたが郵
便費を封筒に記入すること、
到郵便局に同合わぬと見て
切腹にしまへした。このため
の違ひがあれば御郵局さま
この整備とされた日曜を
學ぶのかは益までも何にも
考へに合はれたいと存じても
ます。

陳川昭三 会
昭和十四年一月十五日伯
原立津中學校創立十周年に當つた。
その、その佳き日を記念してわれ
れは昭三氏は、終生を津市新町家
前の中井で開いた。一つには卒
業後四年（昨年）の記念兼ねる
ものゝあつた。

この機会が開かれた前にも、予め
新塾・東市街防衛の母校、雄南校
員等得志者はその期望に応ずる通
知をしていただいたが、当日は生間閑
寂とした。

本學堂の開始は壬戌世
群公表のありさによつてその
た。

殊に陳君は職銜柄、全国の学
校を見回しているところであるが、
同君の言によれば、西川理雄校長
長から、常に関がされていさう
に、日本の高校は、風情の優否
を語つたもので多と感心してい
た。

そこで、本學堂の開始は壬戌世
群公表のありさによつてその
深した。（S・村瀧隆記）

今日の日を過ぎなかつた
たつても過越はなかつた。
この日、七時半から参集は
招待した廣福院の寺田先生を中心
に、特別に参加した副團長病
君、昭和四年卒、もまた記念集
影、その昭和四年三月三日
卒業時の卒業生代表の復讐を真
を参集者に配し、一層の銘を
よ。

戦時中の女生時代から敗戦の
一番新しい時代に結婚、出陣育
児く二千餘人を、経験するまで
来々さいませと、歴々の一人々々
割合にいそむけに苦勞と、今
日お話を樂めた友達の話を
して、自分の話にも、また
よくお手本になりました。

初めさんには居さんとどぞ活躍
舞臺事業され、家庭も立派で而立

した。また、たて乗客たるものゝは、
 藤原、狹路の両方へともなほ
 降参し、各學校の頭等先生、土
 保親君を以て、むねと五人が母
 校の儀に感謝した。謝記、君
 人は、世に、自負が必要が
 を、そしてそれが最低必要がを
 知るべきである。世間にせよ、
 世の中にせよ、それに与えられ
 るものではなく、ただ自分自身
 によつて進ぶものでかない。
 以上、藤原の自負の事。

日午の二時六十分、であつた。集
 団の人数は三千名で、東京、東
 都西貢は二千人、例に近きのは
 かりはあつたが、何にも、途中
 本業様世に初めに参び
 たものもあり、登本業君等は
 田先生を前にして、おれとお君は
 どちらが先登見せるか。と言
 つて、傍から、一草田先生など
 と言つて、半メートルほど飛下
 つて先にあひこをするという
 珍現象見せる。場面もあつた。

白菊会記

久居居の方の挨拶で、樽原
 儀典を聞かれました。
 例年御出席になつた新羅山田
 今村儀典先生は、お二人を側都
 合が要く、現受した。が、阪華
 子、豊野デス。西岡悦子、が
 名品から水井洋子、鈴鹿らに登
 閣芳子、津の菊池芳子、藤田
 子、田村がね子、西口登代子、久
 され、藤原が、白菊舞で、デサイ
 子として成功して、大阪で洋
 菊を経営、秋葉さん、も、呉服店
 を経営されて、それだけ立
 派の心で感心しました。花さん
 は、家事の食間に蒲團を置き、
 このころふふと、秋風麗に
 一層目の入邊を、言いました。
 四四年の発表は、長瀬さん
 に、指揮になり、八月、縁の当
 目、みんな出席した。お、開
 き、に、思へ。女さん、ど

でも津屋は、すでに、多くが
死んでしまつた。私は、
それらの会葬者知られが、生
まれながら近代的社会の下で
は、一番とて進んだ生活があ
るのではなかつたか。

その中で、運動場の縁は、今
年も昔のうに花開くにちがい
ない。

「事務局長だより」

一、新入会員のおしらせ

同窓会は、新卒業生六八名を
新入正会員として迎へます。
（会費発付時には卒業生には
ありませんが、われわれは「も
う」は正会員として迎へたい）
かく津高同窓会の会費額は
一四二・二名となす。（内訳
・別七五二・三名、三重校共八
・移動間、リシともむねの印刷する

だ！主人多めは情けなげにと
うで私多めには情かなのか」
「私はまためで住所変更を通知
しよあたるが鑑して一部であじ
い……」などお電話や電報が
たくさんびん詰りを流していま
す。何とかこの無言傳ひがなが
くてもいいです。」「さう思っ
ています。また、「会費」住所
変更間、リシともむねの印刷する

う千歳はよいのです。等の親類
切中し出にも敬希主不能なの
を御承知下さい。

(S19) 浜口登代子

それは昨年縁會から願ひし

[illegible]

生のもまの豆腐をきつて、
に助まふ、生活がうきまふ
機嫌にのほほ、人ではなかつ
たと思ふ。あ事がちにも大変
有意義な、目でありまた事と
合思ひ出てもほのぼのととも
の多きものだ。先のこれか
いよゝを元元と卒々生に召
集合を仕て下りてさう願つて
みまへん。

貴族院の議長の葬に、
すなはち陳情するに、運出
してゐるであります。

と、かゝるし、お熱心ながら
お願ひ申し上げる御座す。

二、皆様への会報託送、郵
送について

毎度、「会報届かぬが」「会
報が給ふのぢや」とは困いたが
うのやうして津浦航はのり
行かぬやうな、
ご本人名を聞いたこともな
い「すつぷ前記」をさうで
す。このかはしの願生特来
としまへん「私は引越して来
たがかりです」等々……。

四十万回分全部郵局へ
送れるのだが、一年は一通
四で、このうとつ思つていま
す。三萬回の同年度は絶へ度し
ます。

お願ひがあらになりまたが郵
便費を郵局へ記入すること、は
到底疑問に問合はれらるゝと
切腹にしまへした。このため
の違ひがあればうか御報告さ
す。この整備とされた日曜を
學ぶのかは益まで何にも
考へに合はれたいと考へており
ます。

